

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年十一月度 入選句（投稿総数三千二百六十六句・小中生投句数二千三百七十句）

### 特選

選者 説田 祐子

大垣城もみじまうなか堂々と 大垣市 佐久間 仁(小六)

緑に囲まれていた大垣城も周りの木々は紅葉して散り始め、お城の周りも少し寂しく感じる季節です。周りの木の葉が散ったことよって城郭が却ってはつきりしてきた。その様子を「堂々と」詠み上げたスケールの大きな句です。また「中七」の「もみじまうなか」の表現も寒さに向かう大垣城やそのお城を見上げる人の心を鼓舞しているかのように思えます。大垣のシンボル大垣城を自慢できる一句です。

川の字で満月を見る父母と 大垣市 高田 滉平(小五)

いいですね。満月をお父さんとお母さんといっしょに見るというだけでもお父さんお母さんの優しさやそれに満足している作者の気持ち伝わります。それを「川の字で」となるとますます仲の良さが伝わってきます。「月がきれい」とか「美しい」とか月の様子は書いていませんが、月を見ている状況を書いているだけで満月の美しさ、周りの様子が十分伝わる句です。

枯れ葉散るガラスのような恋心 埼玉県川越市 神田 元樹(中三)

作者は何と繊細な心の持ち主でしょう。「秋は人恋しい季節、心澄む季節」と言われますがまさにこの言葉をそのまま俳句にしたような句です。枯葉のもろさとはかなさを「ガラスのよう」と詠み上げた表現力に改めて作者の心の繊細さとナイーブな感性を感じます。これからの句作りや生活にも活かしていきましょう。

### 秀逸

かきのいろ夕日にあたりさらにこく 大垣市 杉浦 二美菜(小四)

金閣寺時代の重なり秋の暮 大垣市 村端 佑菜(小六)

天高しさをかさ金閣ゆれている 大垣市 本 杉 嵐(小六)

コスモスの影持たずして咲きにけり 埼玉県川越市 佐々木 玲緒(中三)

一人旅地べたで蟻蛻踊ってる 埼玉県川越市 松田 夏子(中三)

後ろから名前を呼ばれこたつかな 埼玉県川越市 仲村 美玖(中二)

前髪をあげた少女に秋来たる 埼玉県川越市 串田 奈津季(中二)

わたり鳥川に集まり鳥会議 大垣市 長谷川 範佳(小六)

秋の暮針に糸もちぬい始め 大垣市 杉本 聡子(小六)

秋刀魚焼き家からおいがあふれだす 大垣市 高橋 歩花(小四)

入選

どんぐりがころころおちておにごっこ 大垣市 市川 侑奈(小四)

どんぐりでキャッチボールだ昼休み 大垣市 川合 凌矢(小五)

コスモスがわたしのべんきょう見ているよ 大垣市 川合 乃愛(小三)

コスモスがかぜにゆれてるうたいだす 大垣市 名和 遥菜(小二)

おつきさまみんなをみてるうれしいな 安八郡輪之内 中吉 桜(小三)

凧や子供のほおを染めていく 埼玉県川越市 矢部 莉紗子(中三)

秋風がほおをかすめて舟下り 大垣市 酒本 瞳(小五)

舟くだり右に左にうすもみじ 大垣市 桐山 翔(小五)

舟下りさくらもみじに手をのばす 大垣市 前田 歩実(小五)

妹と小さなケンカ秋の夜 大垣市 田中 響(小六)

入選

秋の暮夕日を背にして本を読む 大垣市 竹田 恵梨奈(小六)

におう立ち秋夕やけをながめてる 大垣市 小松 礼奈(小六)

本読んだ官沢賢治秋深し 大垣市 富田 純也(小六)

自転車で習字に行く道そぞろ寒 大垣市 大橋 佑太(小六)

いちようのはしやわあのようにおちてくる 大垣市 盛田 大仁(小三)

赤とんぼおとしものしてさがしてる 大垣市 枝澤 匠真(小三)

くりのいがそつとつまんで二つ三つ 大垣市 西脇 楓華(小四)

さんまたちむれをつくってデパートに 大垣市 伊藤 誠章(小四)

なべの中冬の野菜がてんこもり 大垣市 山浦 志恩(小六)

赤蜻蛉空のステージおどってる 大垣市 小寺 柚葉(小六)

ぎんなんのにおいが増えた運動場 大垣市 中島 明日香(小六)

選者吟

コスモスの揺れて隣家のピアノかな

祐子